

自分の歯・口に関心を持ち、健康を維持するための生活習慣づくり

～一人ひとりの実態に応じた歯・口の健康づくり～

和歌山県立きのかわ支援学校

本校は和歌山県の北東部に位置し、南は霊峰高野山や県内最高峰である護摩壇山が連なり、その中を東西に紀の川が流れるという自然に囲まれた環境にあります。在籍する子どもの障害の状態は重度重複化、多様化の傾向にあり、日々の健康面に関する配慮も欠かせません。児童生徒にとって、歯・口の健康づくりは、生涯にわたる健康づくりの基礎として重要な意味をもっており、児童生徒が歯・口に関心を持ち、一人ひとりの実態に応じた健康を維持するための生活習慣づくりのために、学校・家庭・地域等、児童生徒をとりまく周囲の大人が連携をはかりながら、実践を行っています。

【研究目標】 ※児童生徒だけではなく、教職員、保護者にも設定しています。

【教職員】

- ・歯・口の健康づくりについて関心を高める。
- ・歯・口の健康について課題を明確にし、保護者に対しても積極的に支援を行う。
- ・保護者と情報を交換しながら児童生徒への指導を進める。

【児童生徒】

- ・適切な歯みがきを習慣化する。
- ・自分の歯・口の状態に関心を持ち、歯垢・歯肉の状態を改善する。
- ・食に関する指導を通して口腔機能の発達を促し、健康的な生活習慣を身につける。

【保護者】

- ・歯科保健に関心を持ち、児童生徒の歯・口の健康づくりに積極的に関わる。
- ・歯みがきやよく噛んで食べる習慣を心がける。
- ・歯科医院への定期的な受診を実行する。

＜歯科健康診断＞

歯科受診につながりにくいという課題があるなかで、年1回の歯科健康診断実施では、歯・口の健康が保持されにくいと、全児童生徒を対象に年2回実施しています。児童生徒が抵抗なく健康診断を受けられることと、口の中をしっかりと見せられることを目的に、仰臥位の姿勢で実施しています。中・高等部の生徒については、歯肉の状態が良くない部位や歯みがき残しがある部位も教えていただき、日常の歯みがきに活かしています。



＜学習活動＞小学部から高等部までそれぞれの発達段階に応じて、自分の歯を守る習慣作りに取り組んでいます。総合的な学習の時間では、歯科衛生士さんが来校され口腔内カメラを使用しての歯みがき指導を、高等部美術科では「よい歯のポスター」を作成する等、さまざまな場面で児童生徒が自分の歯の健康を意識できるように取組を実施しています。



また、噛むことの効果の学習や咀嚼力判定ガムを使用したしっかり噛むことの経験、調理実習でのオリジナルかみかみ定食作り等、児童生徒の実態に合わせて学習を深めています。

＜かみかみ給食＞

咀嚼力の低さに課題を持つ児童生徒が多いことから、学校給食と連携をはかり、毎月1回、かみかみメニューを提供し、咀嚼力の向上をはかっています。



また、噛むことの効果の学習や咀嚼力判定ガムを使用したしっかり噛むことの経験、調理実習でのオリジナルかみかみ定食作り等、児童生徒の実態に合わせて学習を深めています。



＜高等部専門委員会＞

高等部保健体育委員会では、「いい歯の月間」中に全校放送で給食後の歯みがきの励行を呼びかけたり、歯ブラシ持参率と歯みがき実施率の調査結果をグラフ化して掲示したりすることで、給食後の歯みがきを習慣化することを全校に啓発しています。

＜フッ化物洗口・塗布＞

ぶくぶくうがいや誤嚥等、児童生徒の実態に合わせて、フッ化物洗口、フッ化物配合ジェル、フッ素スプレーと、3種類の薬剤を使用して実施しています。導入にあたり、学校歯科医 下田隆志先生に講師を依頼し、保護者を対象に説明会を開催しました。週1回法で実施し、「食べたら歯みがき、ぶくぶくうがい」が習慣化しています。



＜職員研修＞大阪大学歯学部 秋山茂久先生

「重度重複の児童生徒への口腔ケアについて」「障害等の実態を踏まえた歯と口の健康を守るためにできること」をテーマに2年にわたり職員研修を実施し、障害児歯科に関する理解を深めました。児童生徒の歯・口の健康づくりのためには、保護者の協力のもと、「痛い」「怖い」「嫌」という印象を与えない、歯みがきや健康診断、治療の必要性を学びました。



＜学校保健安全委員会＞

校内委員会を月1回、学校三師（学校医・学校歯科医・学校薬剤師）や保護者等を含めた拡大委員会を年2回開催し、歯科保健を中心に協議をしています。学部間における実践内容の情報交換や、学校三師より専門的な視点から助言をいただくことで、教員の歯科保健に対する意識の向上、児童生徒への専門的な指導、また、学校・家庭が同じ方向性を持って取り組むことにつながっています。